

今日のトピック 豪ドルの足元の状況と今後の見通し（9月） 中国の景気減速懸念の後退につれ、底堅い展開へ

ポイント1 豪ドルは足元で反発 鉄鉱石価格も底入れ

- 豪ドル円レートは、6月下旬以降、中国株式市場の下落などから下げ足を速めていましたが、中国株式市場が下げ止まるにつれ、足元で反発の兆しを見せています。鉄鉱石価格が上昇に転じたことも、豪ドルの下支え要因になっていると考えられます。

ポイント2 豪州経済は緩やかな回復 日豪金利差は安定の見通し

- 4-6月期の実質GDP成長率は、前年同期比+2.0%と、豪州中銀(RBA)の想定通りでした。
- これまでの利下げ効果などから、豪州経済は内需を中心に緩やかな回復を持続する見通しです。一方、インフレは、高水準の失業率や資源価格の下落などから当面低位で推移すると予想されます。
- 豪州の金利低下により縮小傾向にあった日豪金利差は、豪州の政策金利が当面据え置かれる見通しであることに加え、日銀の金融緩和の継続もあり、当面安定的に推移すると見られます。

今後の展開 豪ドルは堅調な推移へ

- 豪ドルの対円レートは、日豪金利差が安定してきたこと、資源価格が底堅さを取り戻してきたこと、豪州の景気回復が持続する見込みであることから、底堅い推移が予想されます。中国景気の動向には注意する必要がありますが、中国政府・当局は景気対策や金融緩和により景気を支えると予想され、豪ドルへのさらなる影響は限定的と考えられます。



豪ドル円レートの変動要因

豪ドル円レートの変動要因		豪ドル高要因
日豪金利差	金利差拡大で高金利通貨としての魅力が増す。	・RBAの利下げに打ち止め感 ・日銀の金融緩和が継続
資源価格	資源輸出拡大で豪ドルの買いが活発化。	・鉄鉱石価格の上昇
中国景気	中国向け輸出拡大で豪州景気が上向く。	・中国政府による景気刺激策

(出所) 三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2015年 9月 1日 豪中銀、4会合連続の政策金利据え置き
2015年 8月26日 最近の指標から見る豪州経済（2015年8月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。